

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和2年5月12日

事業所名:くまのこ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			定員に対し法令基準の1.5倍の広さを有しているので、ゆったりと過ごしてもらえるスペースがある。
	2	職員の配置数は適切である	○			法令の基準以上の人員を配置している。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			予測不能な状態が苦手である特性を持つ児童さん一人ひとりに合わせて、一度に提示するスケジュールの量を考慮している。同じ活動を行うグループごとに場所を区別するようにしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			清掃は必ず実施し、清潔で、心地よく過ごせる環境になるよう心掛けている。児童さんの活動に合わせて楽しく過ごしてもらえるよう配慮している。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			職員間で意見交換を行い適切に行っている。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○			毎月家庭訪問を行い各保護者の意向を把握するよう努めている。アンケート結果を基に保護者等の意向を把握し、事業所で対応可能なことから取り組むようにしている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			当社HPにて公開している。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		第三者による外部評価は行っていないが、法人内でその事業所に属さない人員により業務管理を行っている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			職員の資質向上を意図し、定期的に法人内で研修を行っている。
適切な支援	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			日常生活での困りごとを減らしQOLを高めるような支援につながるアセスメントを行った上で、ニーズや課題を客観的に分析し計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			標準化されたアセスメントツールに範をとった当事業所オリジナルのアセスメントツールを使用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		児童さんにもわかるようとの思いから、可能な限り平易な言葉を使って表現するようにしている。	計画を読めば支援内容がイメージできるように具体的な内容を設定している。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			重要なことなので、児童発達支援計画に沿った支援を提供している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			児童発達支援管理責任者、児童支援員、障害福祉サービス経験者がチームとなって対応している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
援の提供	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			児童さんの状況に応じたプログラムを立案・実施・見直しを行っている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			上記記載の通り、各児童さんの状況に応じた児童発達支援計画を作成している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			毎回打ち合わせを行い、支援の内容や役割分担を職員間で確認し支援を行っている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○			毎日各児童さんごとに療育記録シートを作成し、振り返りをしやすく気付いた点等を共有している。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			毎日とっている療育記録などから、支援の検証を行い、より良い支援につなげるようにしている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			日々の療育の中で変化等に気付いたときは、直ぐにモニタリングを行い計画の見直しの必要性を判断している。
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			主に児童発達支援管理責任者が参画している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○			必要に応じて連携し支援を行っている。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	-	-	-	現状、医療的ケアが必要な児童さんは通所されていませんが、医療的ケアの要否にかかわらずアセスメント時には主治医を確認し、状況に応じて情報共有、連絡調整を行っている。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	-	-	-	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			事業所として必要に応じて連携している。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○			事業所として必要に応じて連携している。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			必要に応じて、関係機関と連携し支援に活かしている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	○			定期的な交流はないが、関係機関と連携し支援に活かしている。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○			児童発達支援管理責任者が参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			日々の療育の中で変化等に気付いたときは、直ぐに保護者と連絡を取り合い共通理解を持つように努めている。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トーリング等)の支援を行っている	○			支援の統一化を図るために、事業所として取り組んでいることの情報共有を行い、保護者の方にも協力してもらえるよう連携に努めている。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			どちらも重要事項であるので丁寧な説明をするよう努めている。
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			児童発達支援計画は支援を行う上で要(かなめ)となることから、保護者に丁寧に説明し同意を得るよう努めている。
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に対応し、必要な助言と支援を行っている	○			保護者からの相談があったときは、面談や電話などで必要な助言と支援を行うようにしている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		現状、保護者会等を開催していない。今後検討していかたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			相談や申入れがあった場合には迅速に対応するよう努めている。また、苦情対応窓口を設けており、担当者が直ぐに対応できるようにしている。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			定期的に活動概要や行事予定などの告知を会報などで発信している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			法人内で規約を定め、法令のみならず規約も遵守するよう従業員に通達し誓約書も提出してもらっている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			より良い支援のためには児童さんや保護者の意思確認は重要であり、意思の疎通や情報伝達のための配慮が行き届くよう努めている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○			現在行事は開催することはないが、日々の活動の中で地域の方から寄付を頂いたり、外出時に地域の子どもたちと交流するなど地域との関係は良好である。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○			緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等は策定している。再度、職員や保護者に周知することを予定している。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			定期的に訓練などは行っており、職員にも有事の際の行動指針を伝えて非常災害の発生に備えている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認している	○			当事業所のアセスメント事項に含まれており、事前に確認している。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
＊常時等の対応	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	-	-	-	食物アレルギーのある児童さんが通所されたことはないが、通所された場合は医師の指示に従って対応する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			法人内で従業員全員にヒヤリハットの報告を義務付けており、法人内でヒヤリハット報告書を蓄積し共有している。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			「障害者福祉施設における障害者虐待の防止と対応の手引き」を基に研修を行っている。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○			過去にやむを得ず身体拘束を行った際には、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載する対応を行った。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。